

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570103236
法人名	医療法人将優会
事業所名	グループホームうしたに将優館
所在地	宮崎市大字恒久5064番地 (電話) 0985-50-6810

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 10 月 2 日

【情報提供票より】(21年9月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) ◎無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(110,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クリニックうしたに・宮崎市郡医師会病院・中山歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は利便性の良い住宅地に立地し、母体のクリニックと同敷地内にデイサービスと併設している。玄関前には設立時に植えられたソメイヨシノの桜の木が春は開花、夏は緑の木陰、秋の落葉と利用者にとっては四季を感じる憩いの場となっている。地域の高齢者がクリニックに通院、訪問診療や訪問看護を受けながらの経緯を経て入居になるケースが多く、家族や利用者は既に信頼関係や馴染みの関係が築かれた状態で安心して入居している。自治会の要請を受けて健康講演や認知症ケアについて出前講座を行なうなど地域の人々と交流することに積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義とねらいについて職員全員で話し合いを持ち理解し、全員で意見を出し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地区の自治会長・民生委員・児童委員・地域包括支援センター職員・利用者と家族・事業所の職員で2か月に1回、定期的に開催している。各々出された意見や意向、要望については議事録に残し、改善に向けて職員全員で取り組みサービスの質、向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に意見や意向・苦情等を言いやすいように日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしている。利用者の居室に意見交換ノートを置いて気軽に意見を書いて貰うなど工夫をしている。また、介護相談員の受け入れも整えて、家族の意見をできるだけ多くを引き出し、運営に反映させる努力をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の一人ひとりが自治会に加入している。地区の自治会は事業所をひとつの班として受け入れ事業所の主任は班長の役割を担い、自治会の会議にも出席している。老人会、敬老会、餅つきなどの行事に利用者は喜んで職員と一緒に参加している。回覧板等も回って来るため家庭に居る時と同様になら変わりなく地域の人々との交流が得られている。また、地域の保育園児や高校生のボランティアを受け入れており子供達との触れ合いがある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を考え利用者が安心して地域のなかで生活を継続出来るように『利用者の尊厳』を重視した分かりやすいやさしい言葉で理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員自ら理念の見直しの必要性に気付いて、討議を繰り返して作り上げた理念であり、管理者と職員はケアの実践に向け日々積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが地区の自治会に加入している。地区の自治会は事業所を1つの班として受け入れ、老人会や敬老会、餅つきなどの諸行事に声がかかり職員も一緒に参加している。回覧板等も回ってくる為に家庭に居た時となら変わりなく地域の人々との交流が得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて全職員で話し合い、全員が意見を出し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、地区の自治会長・民生委員・児童委員・地域包括支援センター職員・利用者及び家族・事業所職員で定期的開催している。出された意見や意向について議事録に残し、改善課題については職員全員で話し合いを持ちサービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する研修会に積極的に参加し、市と連携することに努めている。また、介護相談員の受け入れを行いサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に暮らしぶりや健康状態について報告している。必要時電話による報告もしている。金銭管理については出納帳で報告し家族の了解を得ている。職員の異動は行なわない方針を採っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切にし、面会時に意見や苦情を言いやすい雰囲気を作るよう配慮している。また、利用者の居室に意見交換ノートを置いて気軽に意見を書いて貰うなど工夫をしている。介護相談員の受け入れも整えて家族の意見を運営に反映させる努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のなじみの関係を断ち切らないように運営者・管理者は職員の異動は行なわない方針をとっている。代わる場合は、職員紹介写真を掲示するなど十分説明し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は職員を段階に応じて育成するために、年間計画を立てて法人内外の研修が受講できる体制を取っている。受講者は研修報告書で報告し他の職員にも伝達し働きながらトレーニングし、職員の質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や施設見学会・研究発表など、同業者との活動を通してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅訪問をしたり、ホームに家族と一緒に見学に来てもらうなど職員や他の利用者とも馴染みの関係を築いてからの利用となるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活暦を把握して、おでんの仕込み方・干し柿づくり、地域の地理情報を教えてもらう等、利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の支援の中で利用者の思いや意向について把握し希望に沿った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画を家族と職員で十分に話し合いセンター方式を導入し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1か月に1回のモニタリングと3か月に1回定期的に見直しがされている。状態に変化のある時はその都度の見直し計画がされている。利用者や家族の意向を充分に取り入れた計画である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間の制限は行わず24時間自由とし、家族の宿泊を支援している。また、盆・正月、誕生日など自宅での外泊支援を行い、個々の満足を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切にし、かかりつけ医や併設クリニックの適切な医療を受けられるように、ホームでの暮らしぶりや必要な情報を提供し、医療機関との関係を築きながら、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期のあり方について、かかりつけ医や家族との話し合いが持たれ文書の取り交わしがされ、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時に個人情報保護法についての研修受講や、外部講師によるマナー研修を受講し、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応や支援をしないように職員教育に取り組んでいる。記録物についても事務所に保管されている。一人ひとりの居室の表示は、宮崎の名所の写真で区別し、利用者のプライバシーの保護に工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般に時間の取り決めはなく、一人ひとりのペースを大切に、利用者本位の生活を重視した支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で専門の調理師が作った料理を職員が盛り付けや配膳をしている。専門的で美味しい食事を、利用者の食形態などに応じ提供している。利用者は出来る範囲で食器の後片付けを手伝っている。検査者1名が利用者と同じ食事を、他の職員はそれぞれの弁当を同じテーブルで食べている。	○	利用者と職員が同じ食事を同じテーブルで会話を楽しみながらすることは出来ないか工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、利用者の希望に合わせて楽しんで入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦や身体機能レベルに応じて、洗濯物たたみや食器の後片付けなど役割意識を持って出来るように支援している。菜園には西瓜やさつま芋が植えられ、草取りなどの手入れや収穫は利用者にとって何よりの楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って近くのスーパーに衣類を買いに出かけたり、家族や職員と一緒に全員で花見をしたり、朝夕は近所の散歩など利用者の意向に添って戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、鍵をかけることの弊害を周知しており、昼間は居室や玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を実施し、訓練の様子など写真や記録に残している。全職員で反省会を行い砂利道は車椅子が進まないと改善課題が出され改修する予定である。今年度から地区の消防団や住民の代表にも協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表を基に、利用者の摂取状態に応じた食形態で食事の提供がされている。水分や食事の摂取量は一人ひとりをチェックしている。体重測定も定期的に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは採光も良く畳のコーナーやテレビ・ソファなどが置かれ居心地良く過ごせるように配慮されている。要所にドライブや花見に出かけたときの写真が飾られたり、昔を回想できるようにとメジロ籠や、てるてる坊主がさりげなく掛けられ利用者に対する職員の優しさが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた馴染みの家具や小物・仏壇等が持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫をしている。また、床に合わせた3畳ほどのバリアフリーの畳が敷かれ利用者や家族にも馴染みやすい配慮がある。		